別　冊

～一人ひとりの存在を大切にし、
未来につながるまちを目指して～

東栄町第１次男女共同参画プラン

令和４年度～令和７年度

男女共同参画に関する意識調査　結果

１．意識調査及び実態調査の分析

（１）調査の目的

町民の男女共同参画社会に対する意識や実態の現状を把握するため。

（２）調査方法

	町民向け	事業者向け
調査地域	東栄町全域	
対象者数	無作為に抽出した東栄町在住の 18 歳以上の住民 180 名（10～20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上の各世代の男女 10 名ずつ）	東栄町内に所在し従業員４名以上の事業者
調査方法	無記名式 （ただし、年代・性別・居住地区などを確認） ≪配布≫ ・通知文、アンケート用紙、返信用封筒を対象者へ配布	無記名式 ≪配布≫ ・通知文、アンケート用紙、返信用封筒を対象事業者へ配布
調査期間	令和３年９月 15 日～９月 30 日	

（３）回答結果

	町民向け	事業者向け
配布数（対象者数）	180 通	42 通
有効回答数	87 通	23 通
回収率	48.3％	54.8％

（４）本報告における注意事項

・図中の構成比（％）は、小数点以下第３位を四捨五入したものを示した。

・回答者数の母数には、無回答は含まないものとする。

・複数回答可とした設問には、グラフ中に延べ回答者数を記載している。

１．各世代の回答率

【町民向け意識調査及び実態調査】

・全体で約５割弱の回答数が得られた。

	送付数		回答数				回答率
年代	男	女	全体	男	女	その他	
10～20 代	15	15	14	5	9	0	46.7%
30 代	15	15	15	7	8	0	50.0%
40 代	15	15	11	3	8	0	36.7%
50 代	15	15	12	5	7	0	40.0%
60 代	15	15	15	6	8	1	50.0%
70 代	15	15	20	12	8	0	66.7%
合計	90	90	87	38	48	1	48.3%

【事業者向け実態調査】

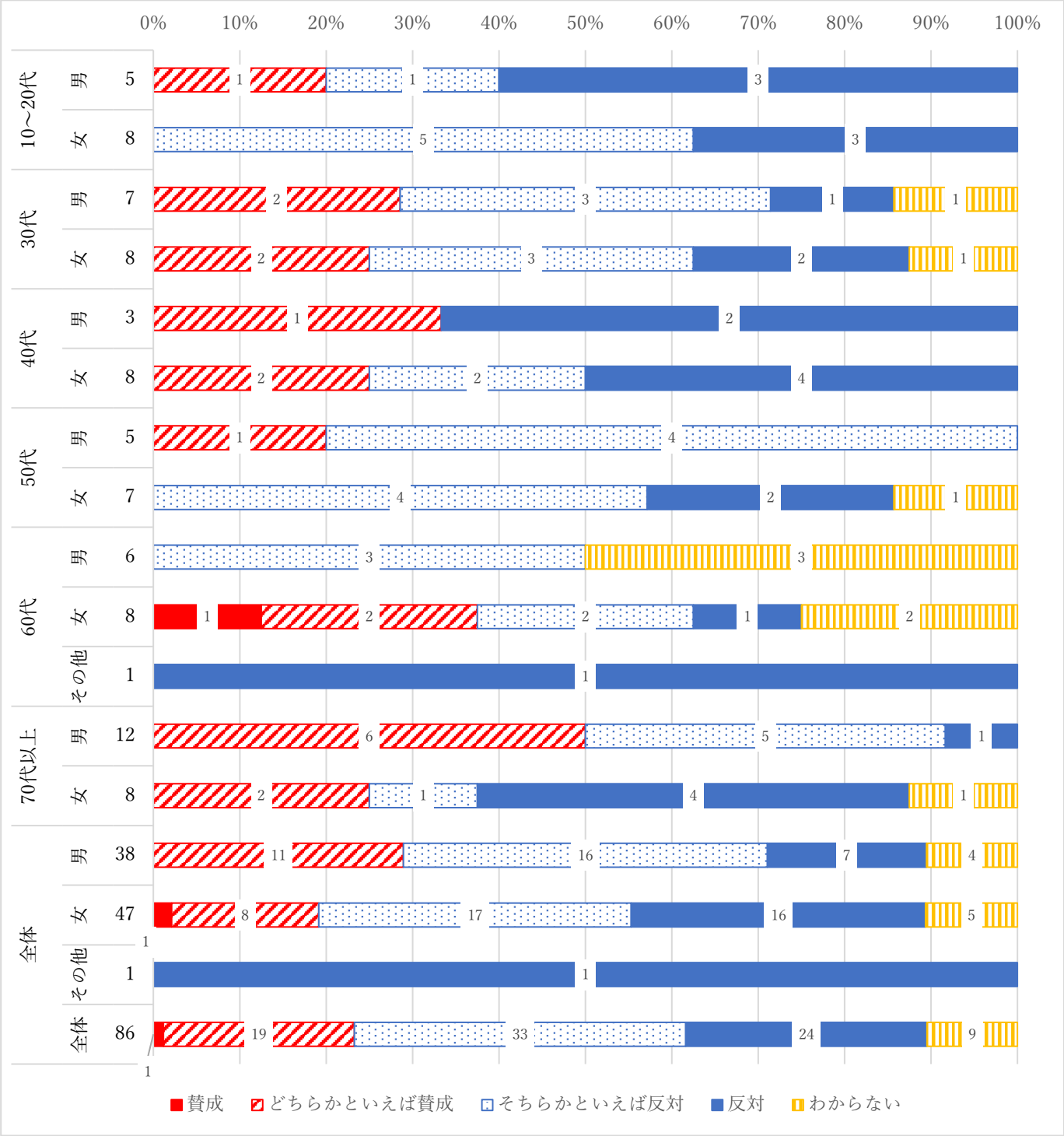
・約５割の回答数が得られた。

送付数	回答数	回答率
42 通	23 通	54.8%

２．調査結果

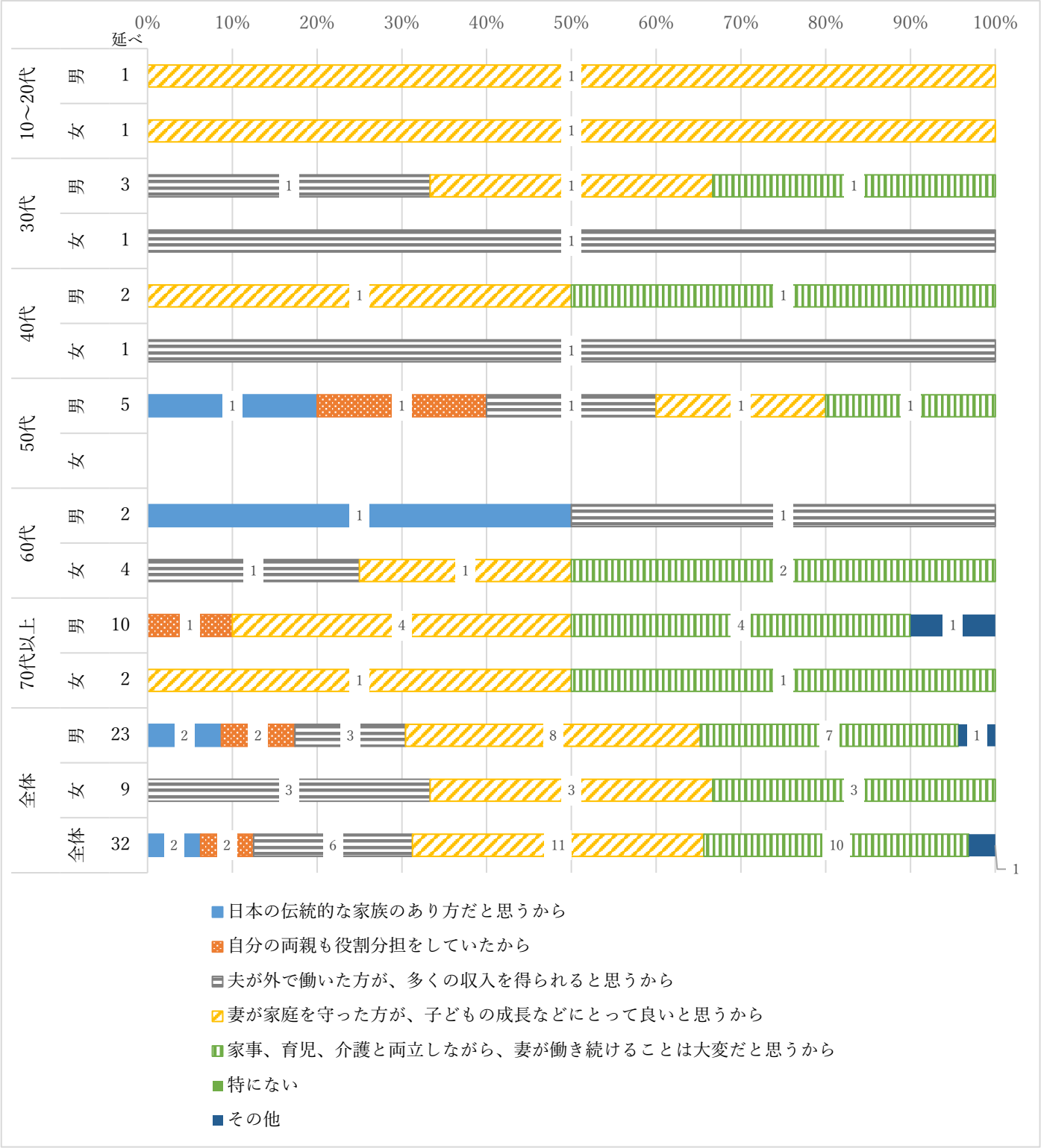
図表１　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

・全体で見ると、反対（どちらかといえば反対を含む）が賛成（どちらかといえば賛成を含む）を上回った。



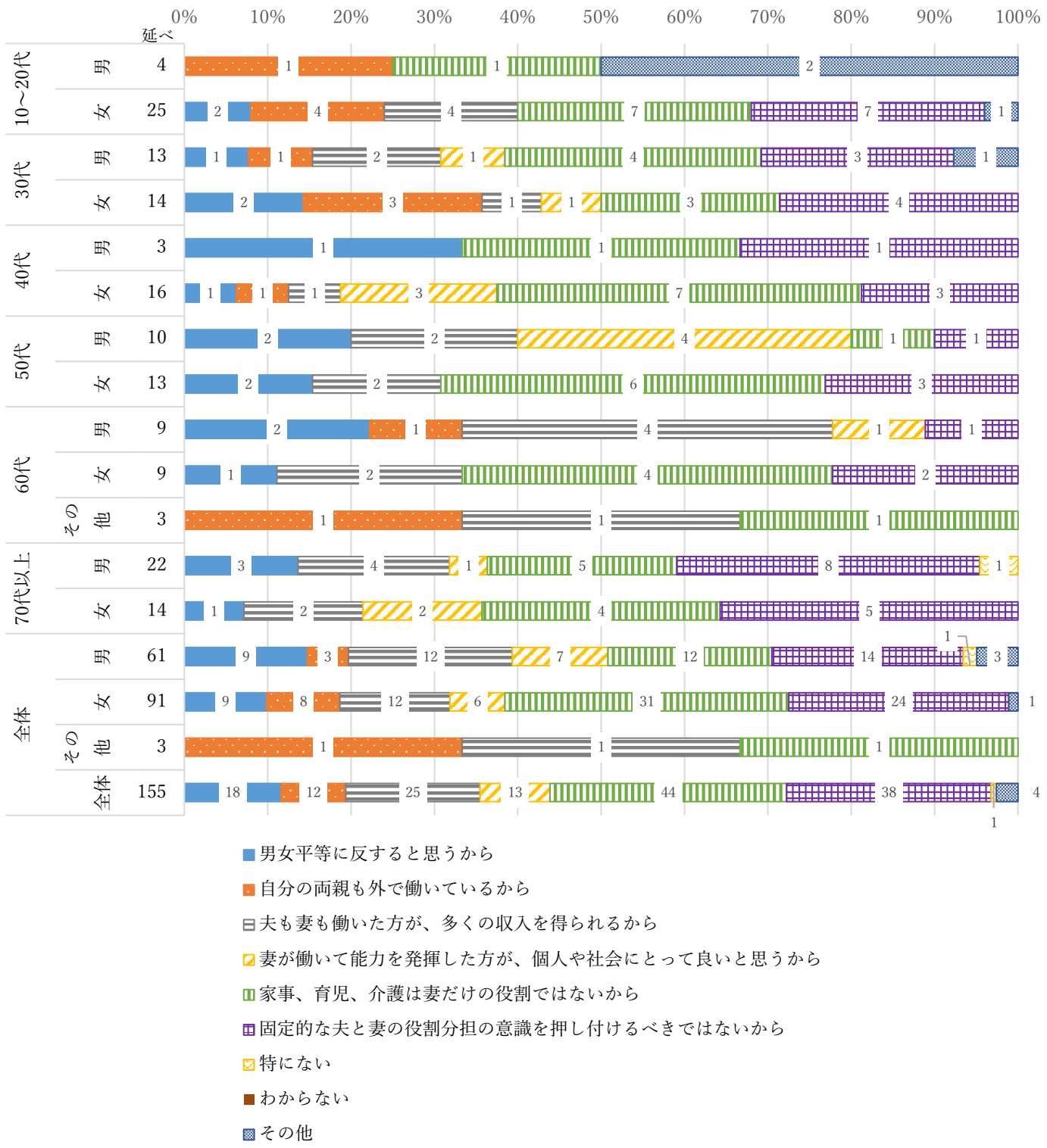
図表２　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方　**賛成**の理由

・全体で見ると、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も多く、次いで「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」という回答が多かった。



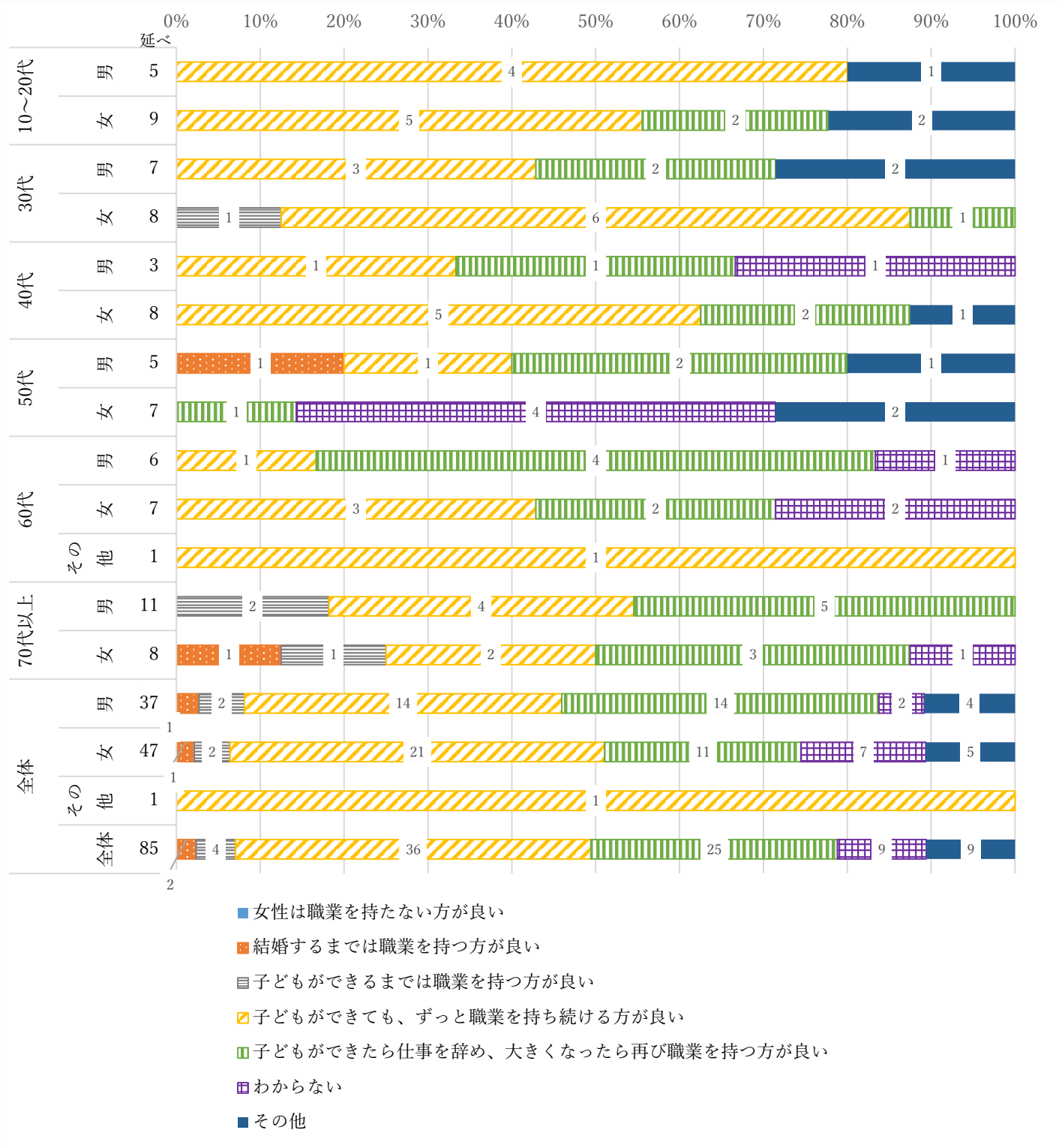
図表３　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方　**反対**の理由

・全体で見ると、「家事、育児、介護は妻だけの役割ではないから」が最も多く、次いで「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」という回答が多かった。



図表４　女性が職業を持つことについて

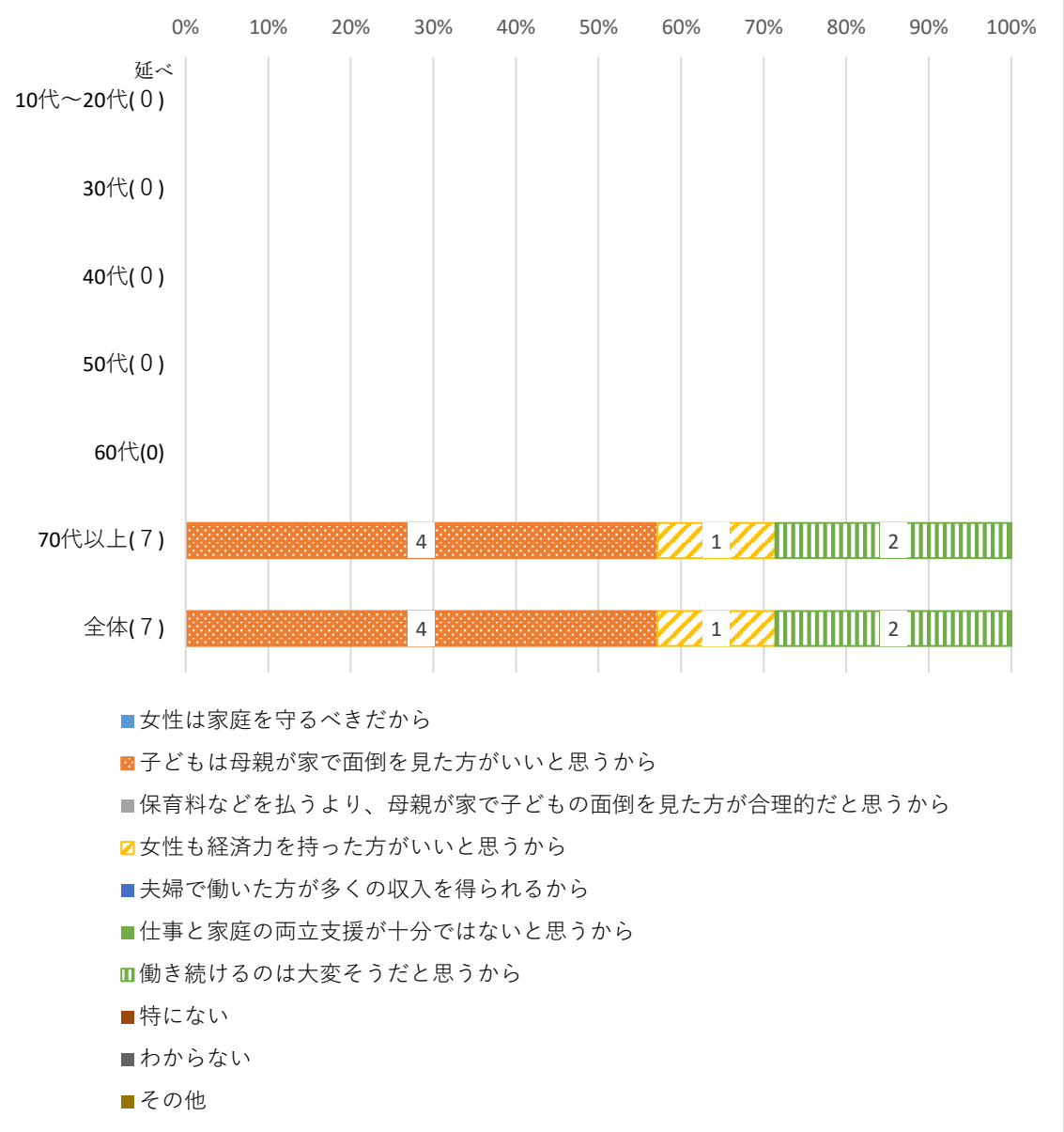
・全体で見ると、「子どもができても、ずっと職業を持ち続ける方が良い」が最も多く、次いで「子どもができたら仕事を辞め、大きくなったら再び持つ方が良い」という回答が多かった。



図表５　女性が職業を持つことについて

（※図表４にて、「女性は職業を持たない方が良い」、「結婚するまでは職業を持つ方が良い」、「子どもができるまでは職業を持つ方が良い」と回答した方が対象）

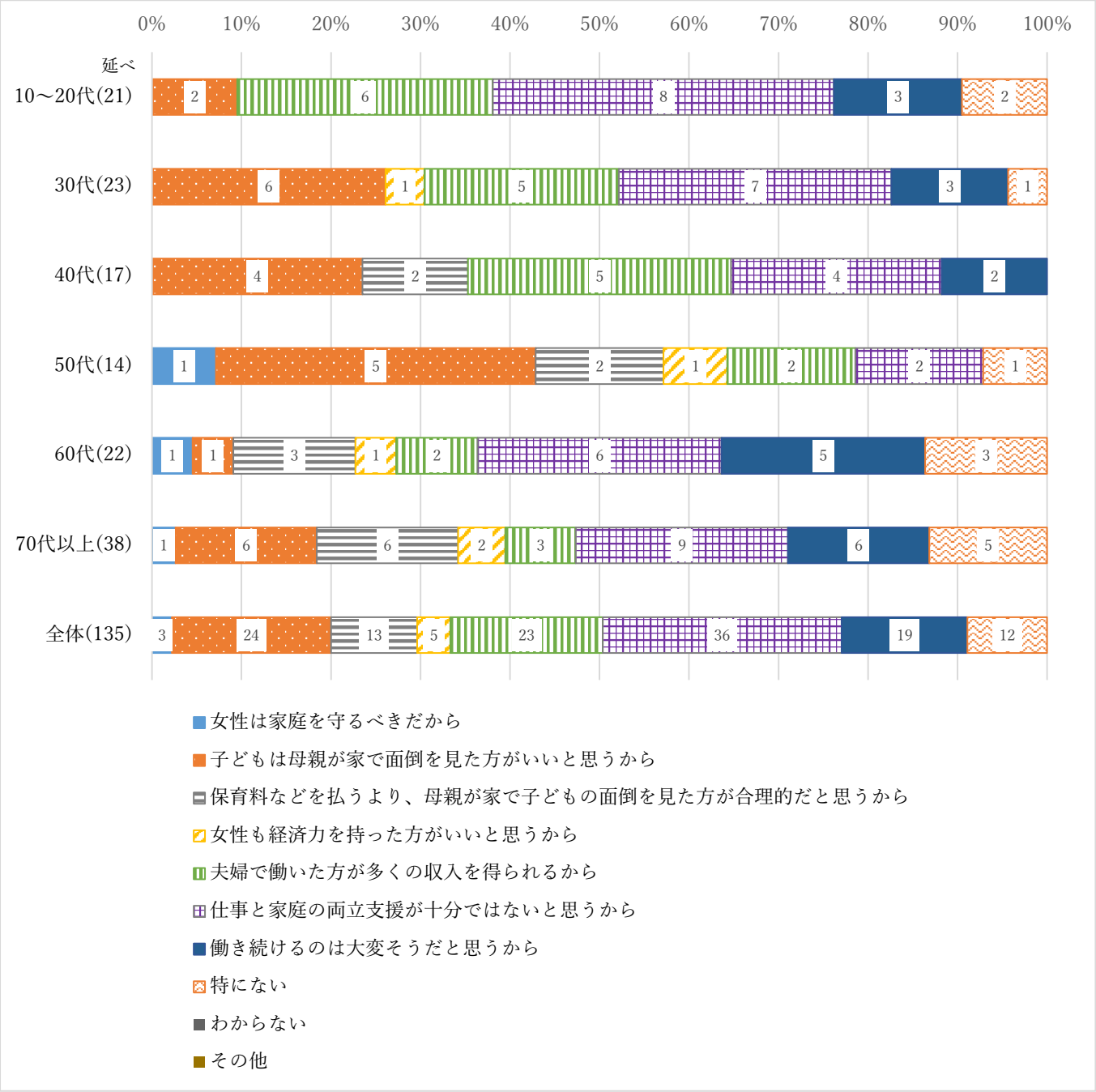
・回答は 70 代以上のみの世代からあり、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」が最多だった。



図表６　女性が職業を持つことについて

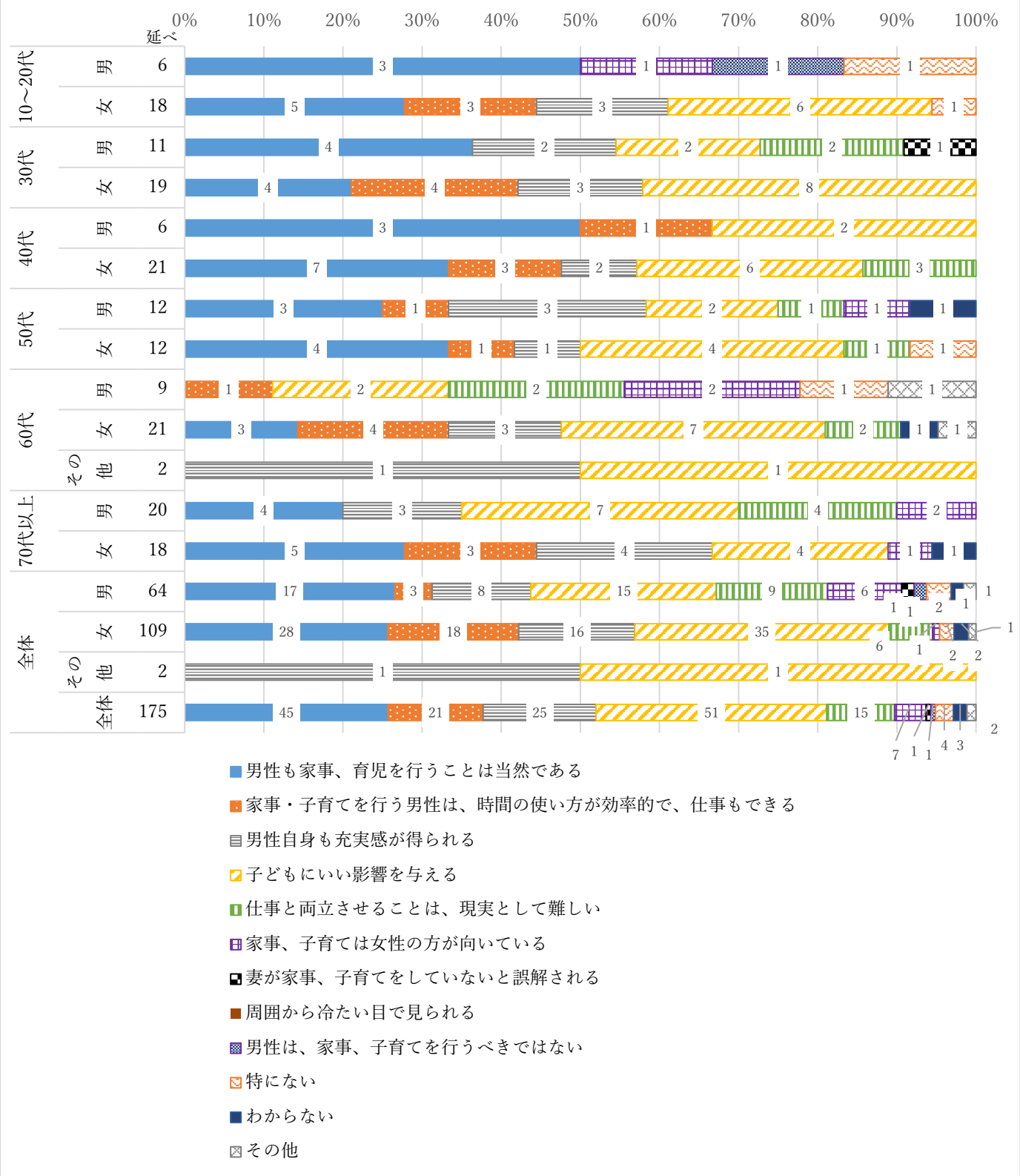
（図表４にて、「子どもができても、ずっと職業を持ち続ける方が良い」、「子どもができたら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方が良い」と回答した人が対象）

・全体で見ると、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」が最も多く、次いで「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」が多かった。



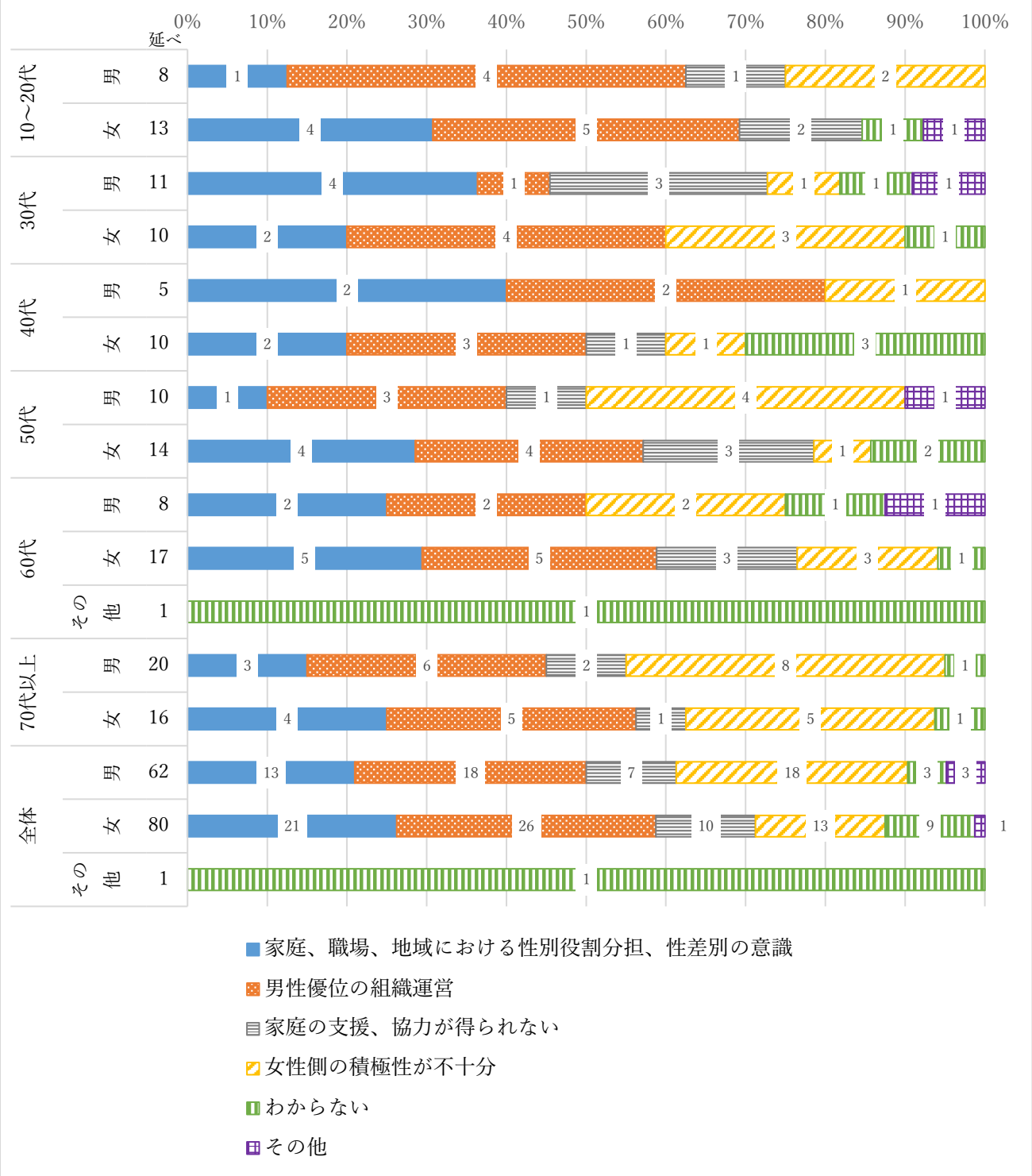
図表７　男性が家事・子育てを行うことについて

・全体で見ると、「子どもにいい影響を与える」が最も多く、次いで「男性も家事、育児を行うことは当然である」という回答が多かった。



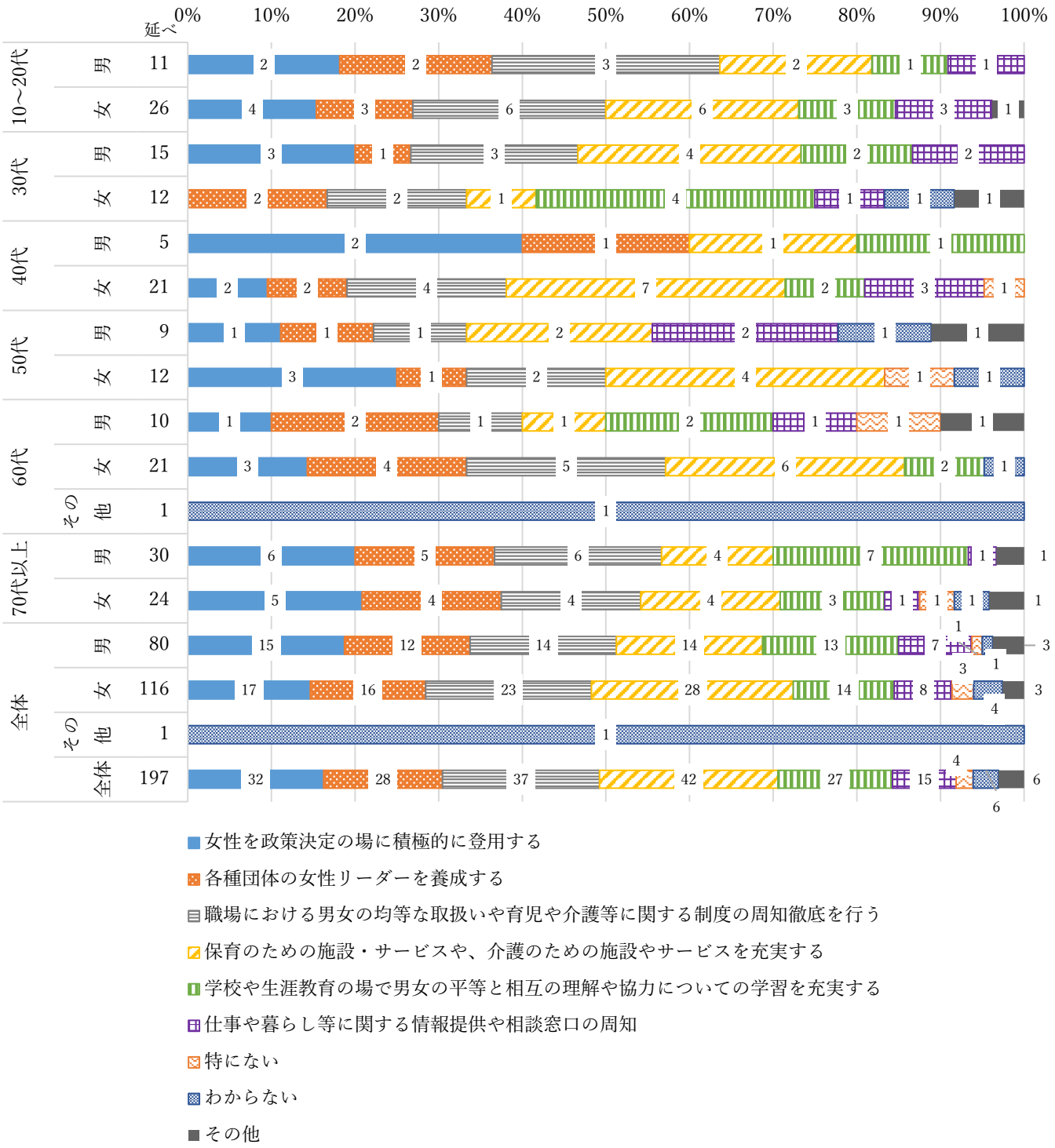
図表８　政治等の方針決定の過程に女性参画が進んでいない理由

・全体で見ると、「男性優位の組織運営」が最も多く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」、「女性側の積極性が不十分」という回答が多かった。



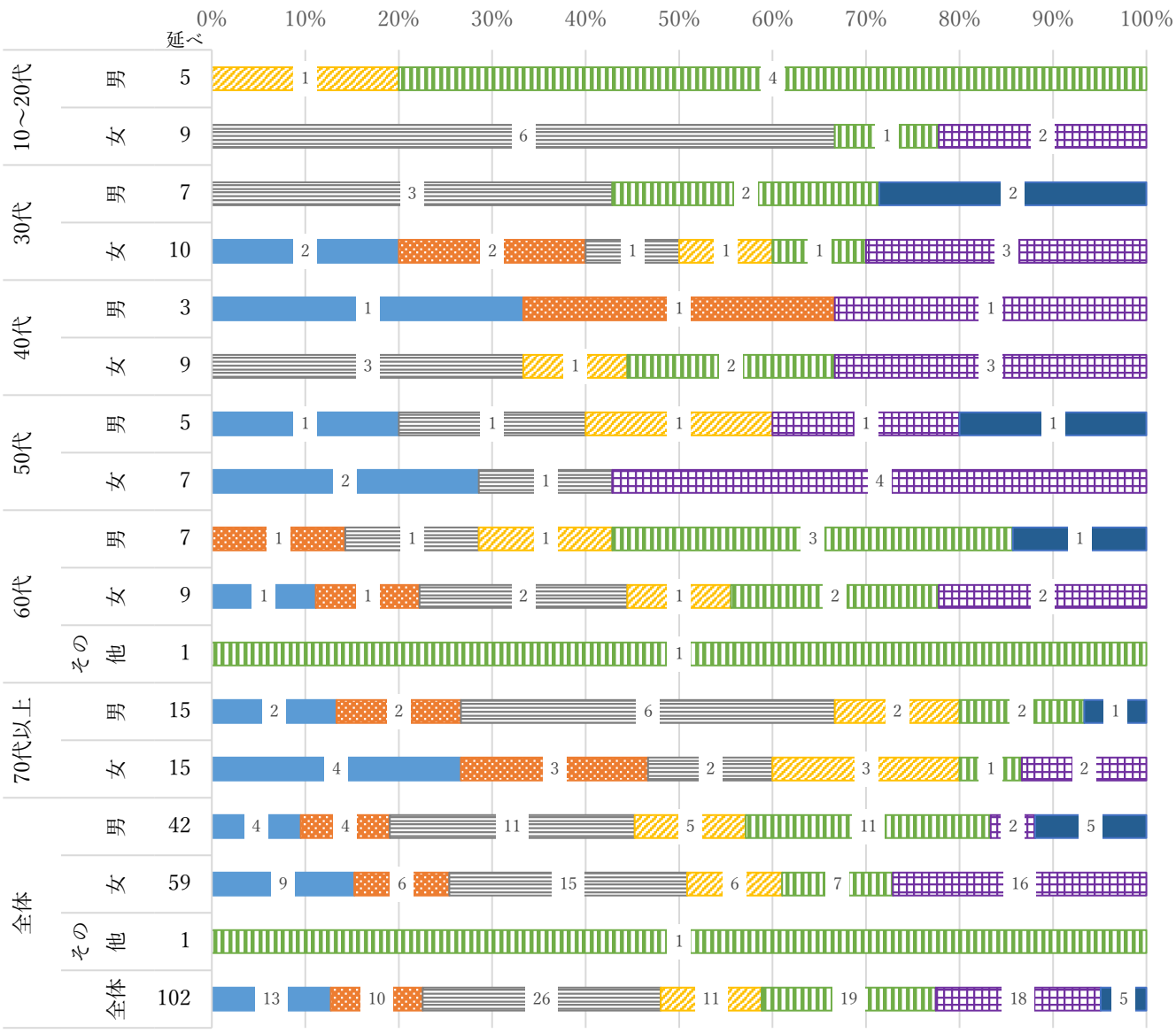
図表９　男女共同参画社会を推進するために行政がすべきこと

・全体で見ると、「保育のための施設・サービスや、介護のための施設やサービスを充実する」が最も多く、次いで「職場における男女の均等な取扱いや育児や介護等に関する制度の周知徹底を行う」、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」という回答が多かった。



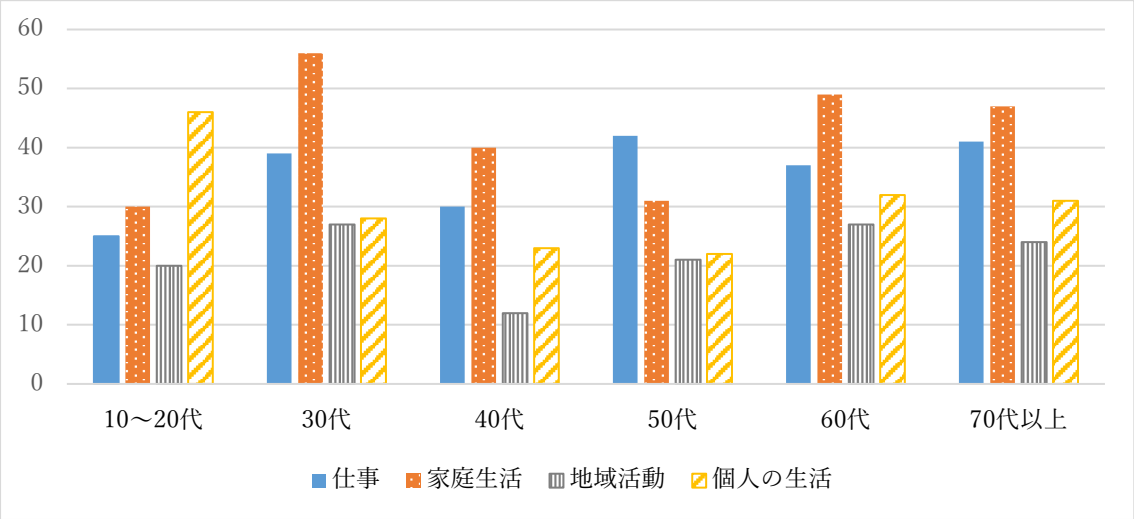
図表 10　男女共同参画社会を推進するためにあなたが取り組みたいこと

・全体で見ると、「「男女共同参画」を、まずは自分の家庭、職場、学校、地域の中で実践してみる」が最も多く、次いで、「特にない」、「わからない」という回答が多かった。



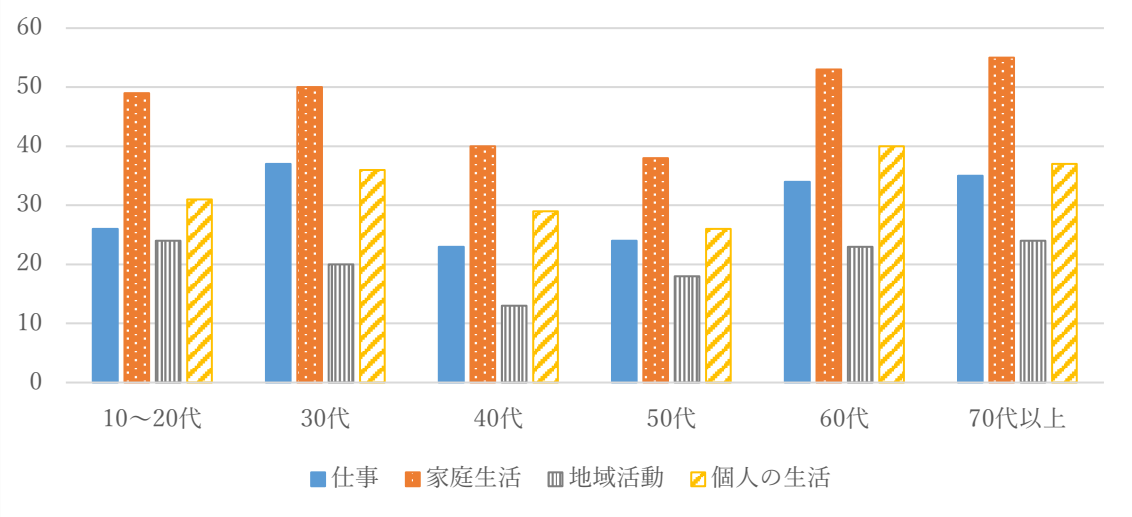
図表 11　生活の中で、仕事、家庭生活、地域活動、個人生活の優先度（**現実**）

・30、40、60、70 代以上の世代においては、家庭生活を最も優先している。
・すべての年代において、地域活動について優先度が最も低い。



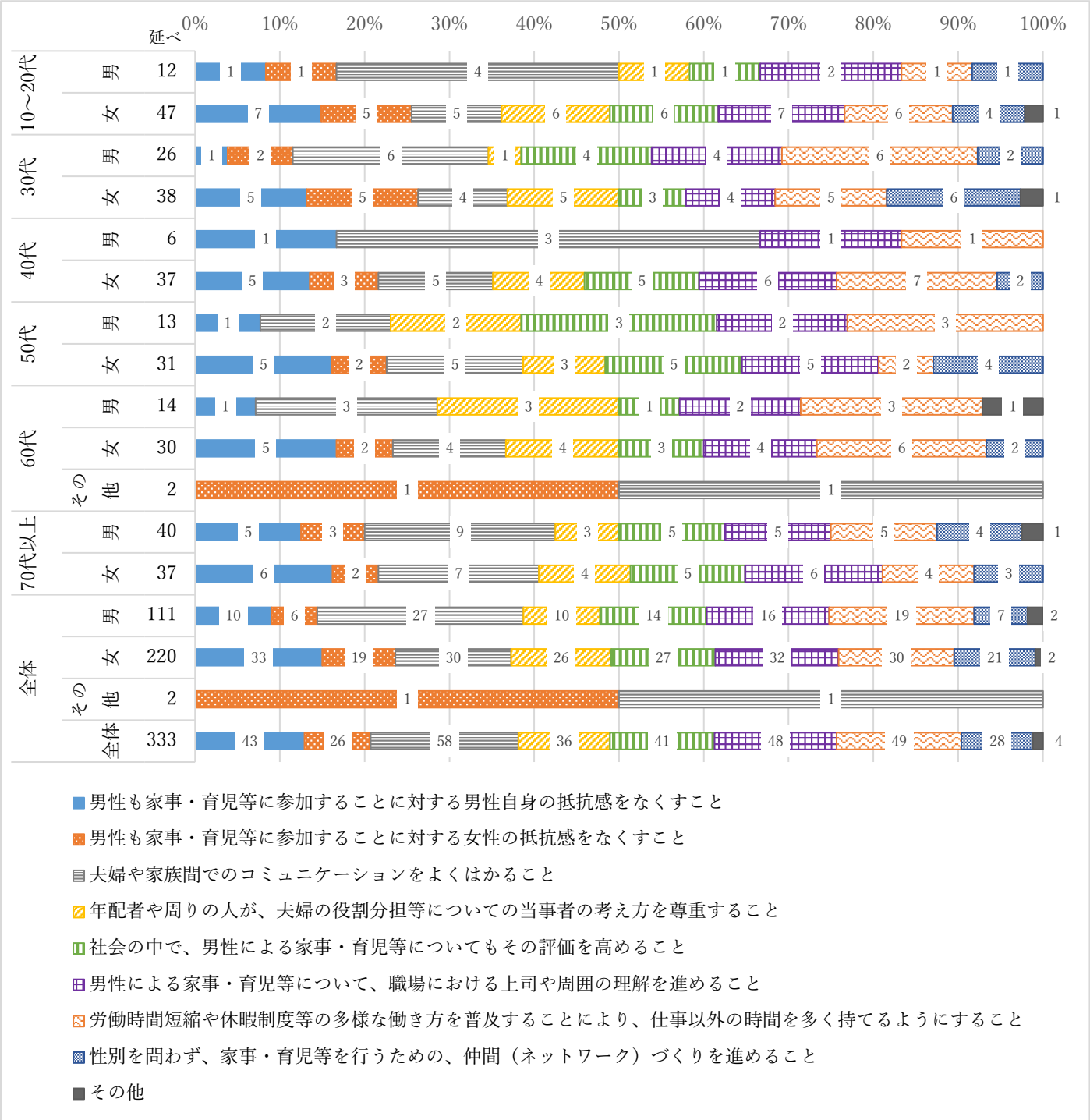
図表 12　生活の中で、仕事、家庭生活、地域活動、個人生活の優先度（**理想**）

・全世代において、家庭生活を最も優先したいと回答している。
・30、40、60、70 代以上の世代は図表 11 の現実においても家庭生活を最も優先しており、理想通りである。



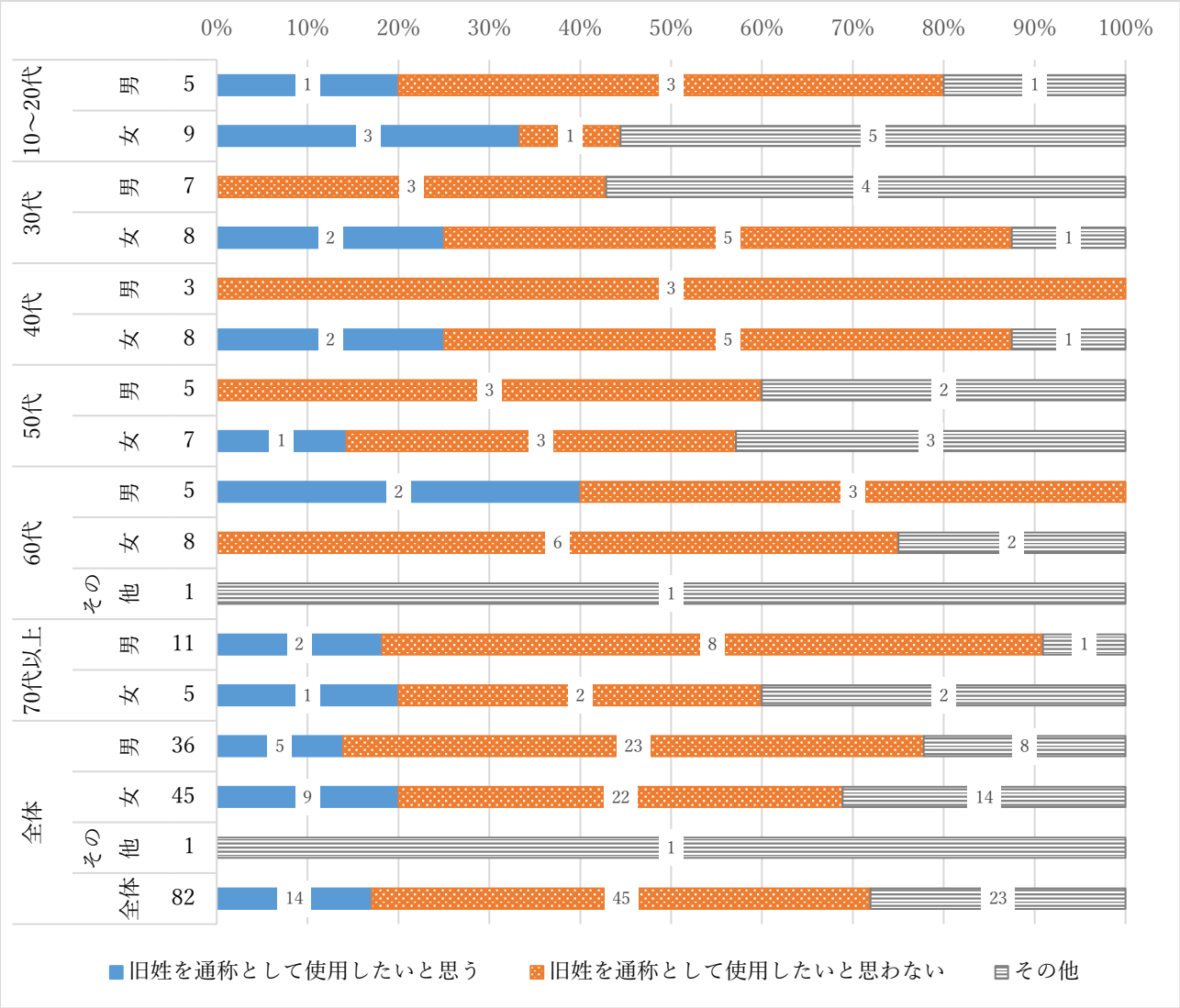
図表 13　男女ともが、家事、子育て等に積極参加するために必要なこと

・全体で見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度等の多様な働き方を普及することにより、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」、「男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進めること」という回答が多かった。



図表 14　旧姓について

・全体で見ると、「旧姓を通称として使用したいと思わない」という回答が最も多かった。



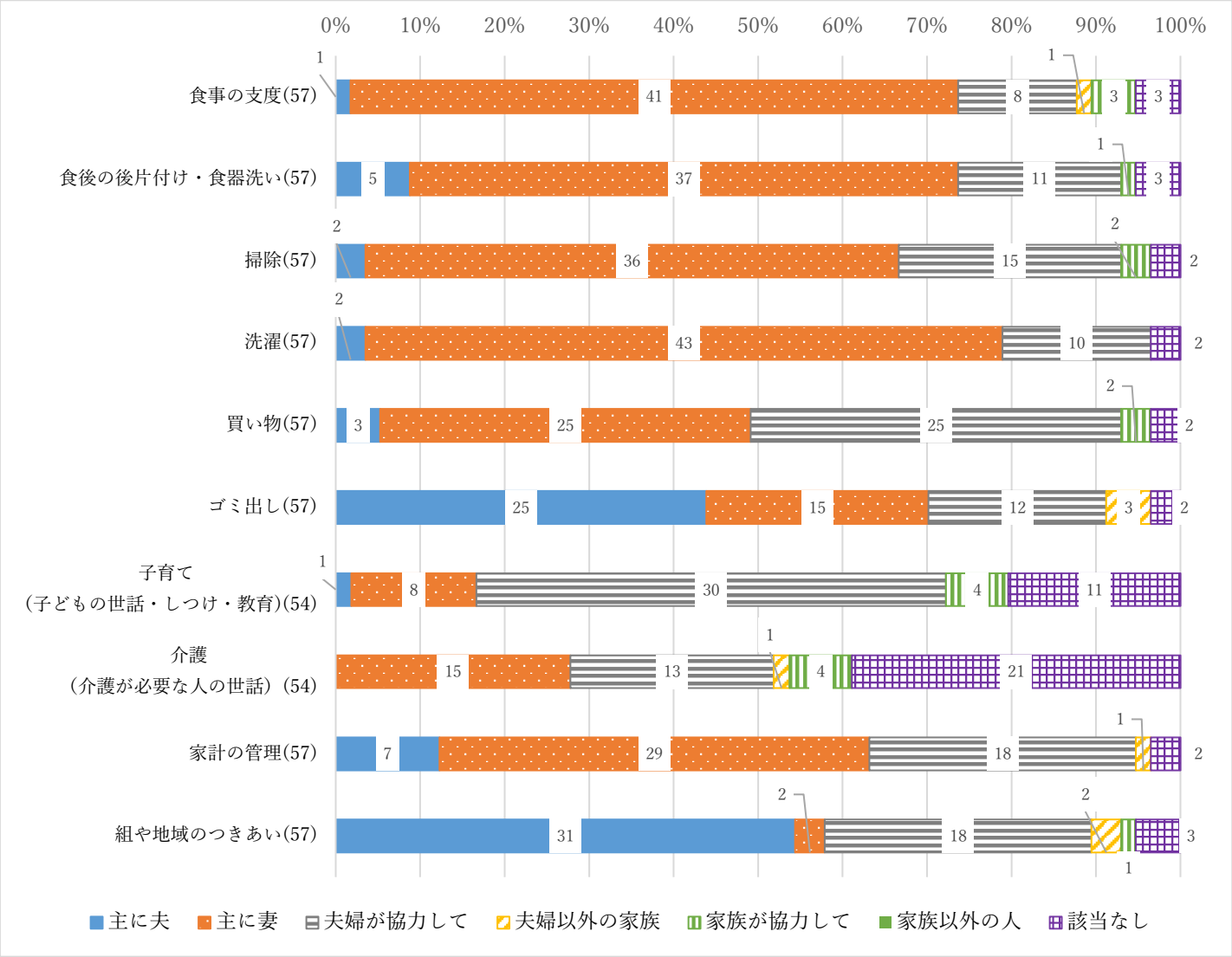
図表 15　家庭生活について

（※現在結婚している方、パートナーと暮らしている方が回答対象）

・「ゴミ出し」、「組や地域のつきあい」は、「主に夫」という回答が最も多かった。

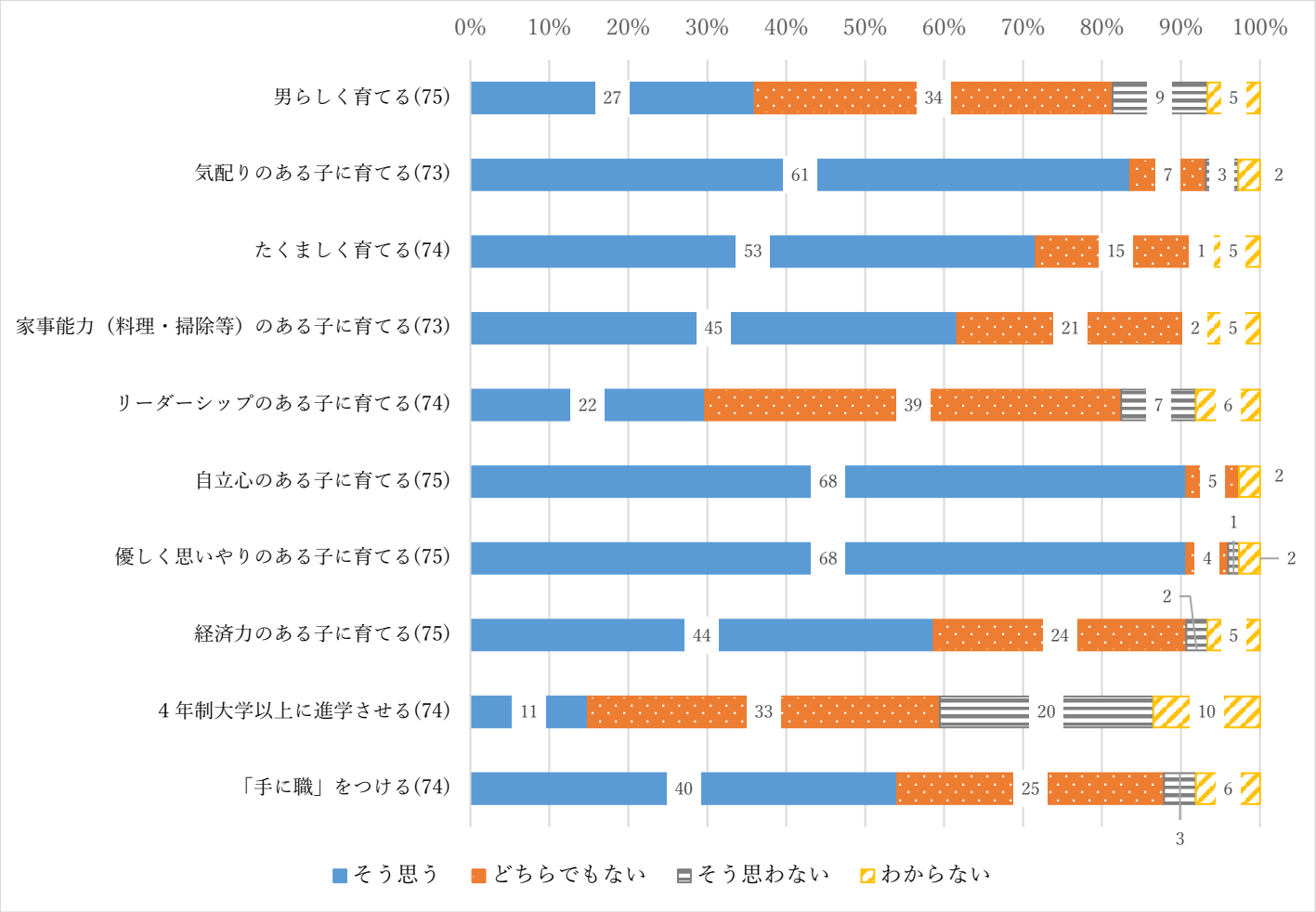
・「子育て（子どもの世話・しつけ・教育）」、「買い物」は、「夫婦が協力して」という回答が最も多かった。

・上記以外の家庭生活については「主に妻」という回答が最も多かった。



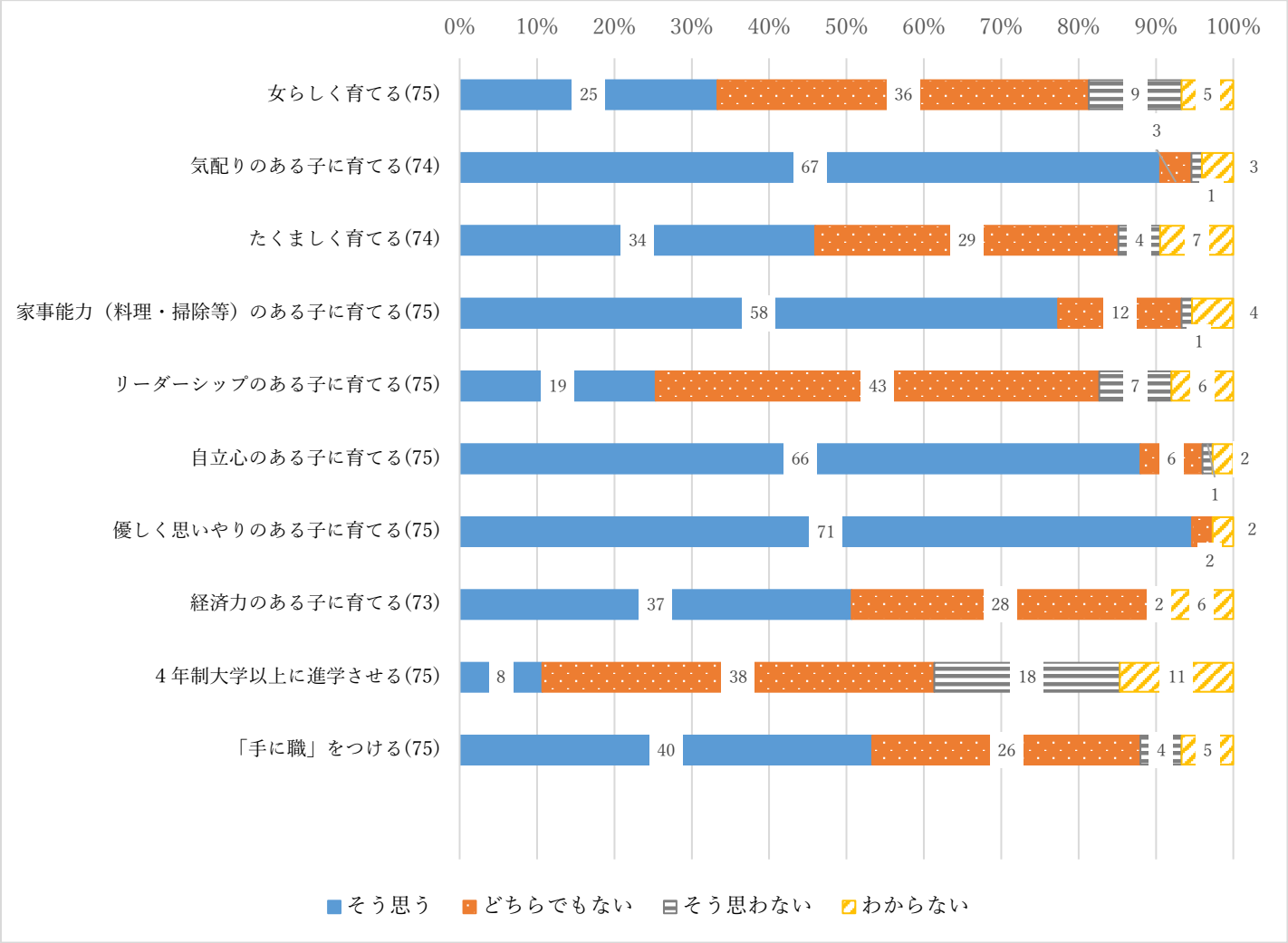
図表 16　子どもの育て方・関わり方について（**男の子**の場合）

・「自立心のある子に育てる」、「優しく思いやりのある子に育てる」、「気配りのある子に育てる」について、「そう思う」という回答が多かった。

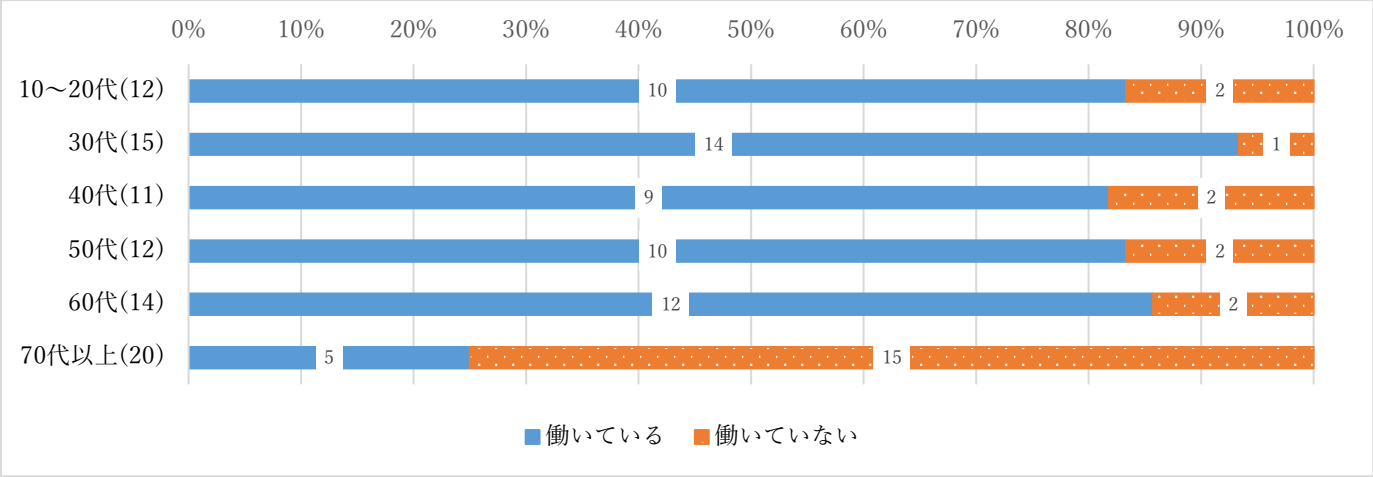


図表 17　子どもの育て方・関わり方について（**女の子**の場合）

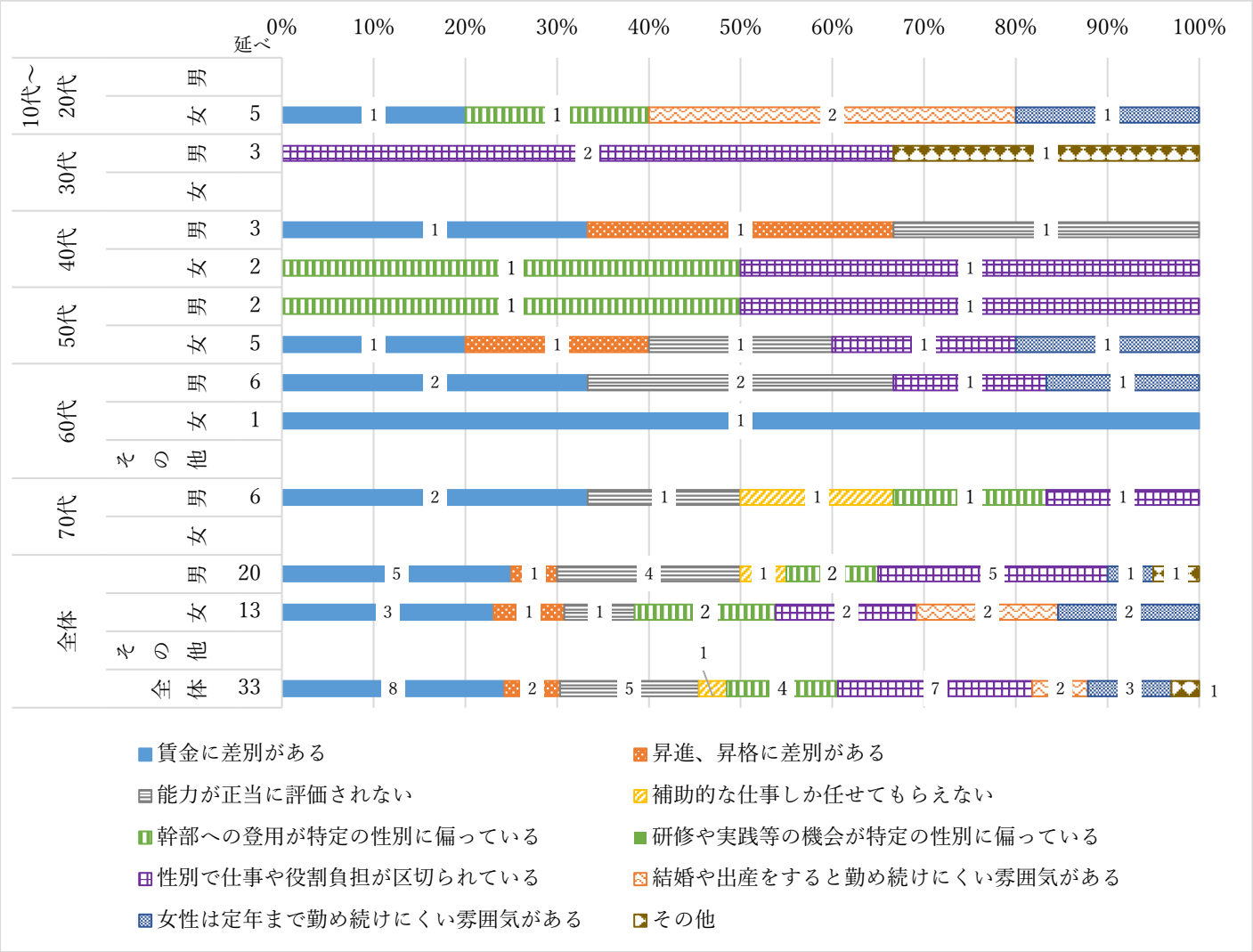
・「優しく思いやりのある子に育てる」、「気配りのある子に育てる」、「自立心のある子に育てる」について、「そう思う」という回答が多かった。



図表 18　現在の就業状態について

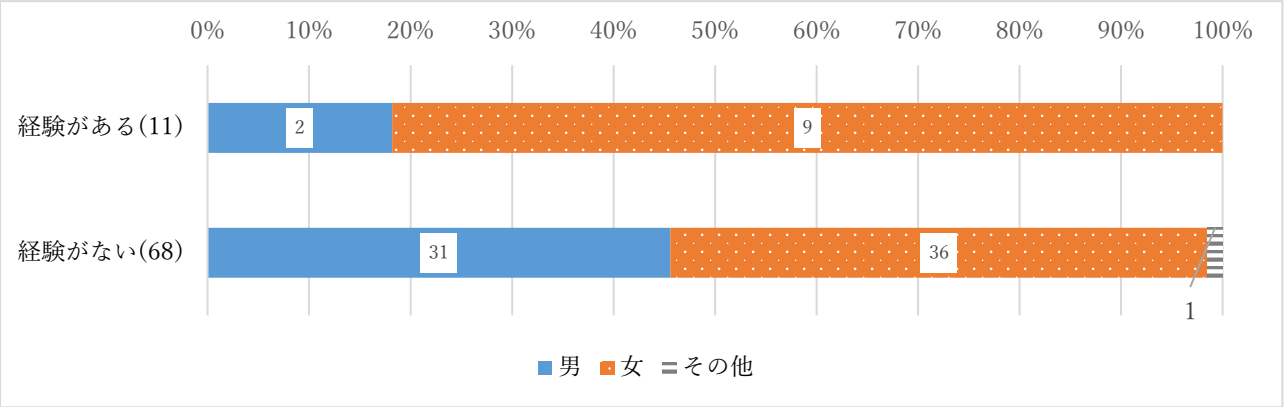


図表 19　職場での性別による差別について
（※図表 18 にて「働いている」と回答した人が対象）



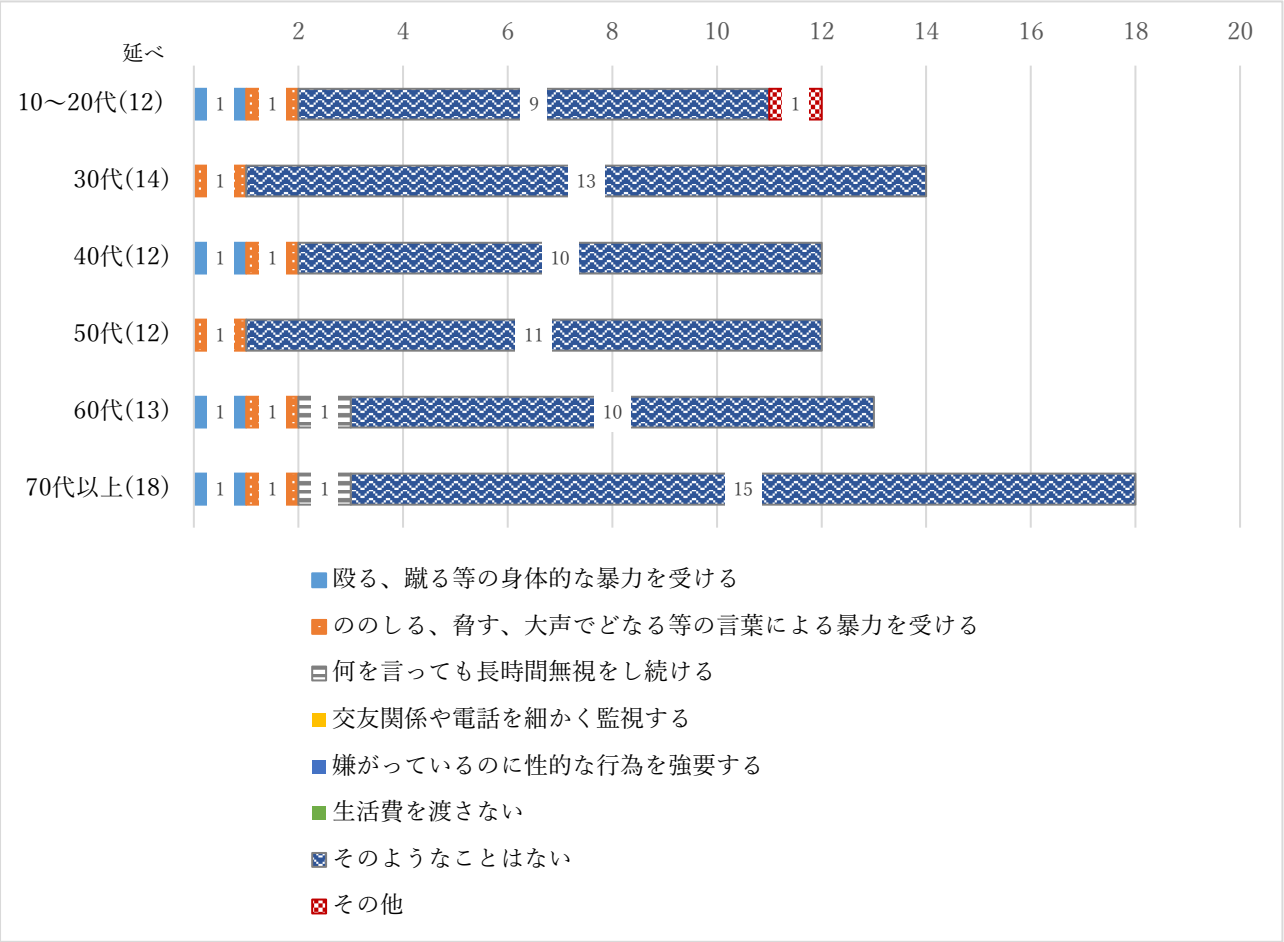
図表 20　DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験について

・男女ともに、何かしらの DV を経験した人がいる。



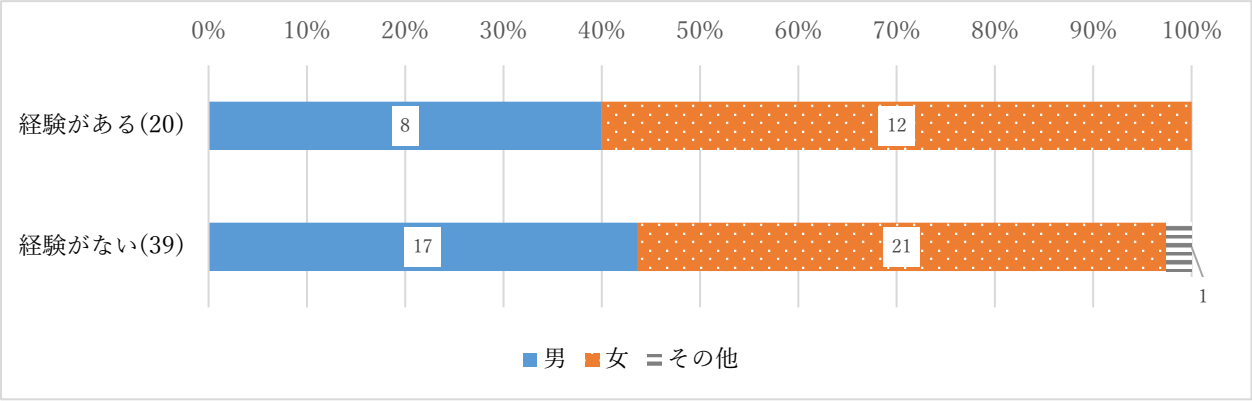
図表 21　これまでに DV を受けた経験内容について

・どの世代にも「そのようなことはない」が最も多いが、どの世代においても何かしらの DV を受けた経験がある人がいる。



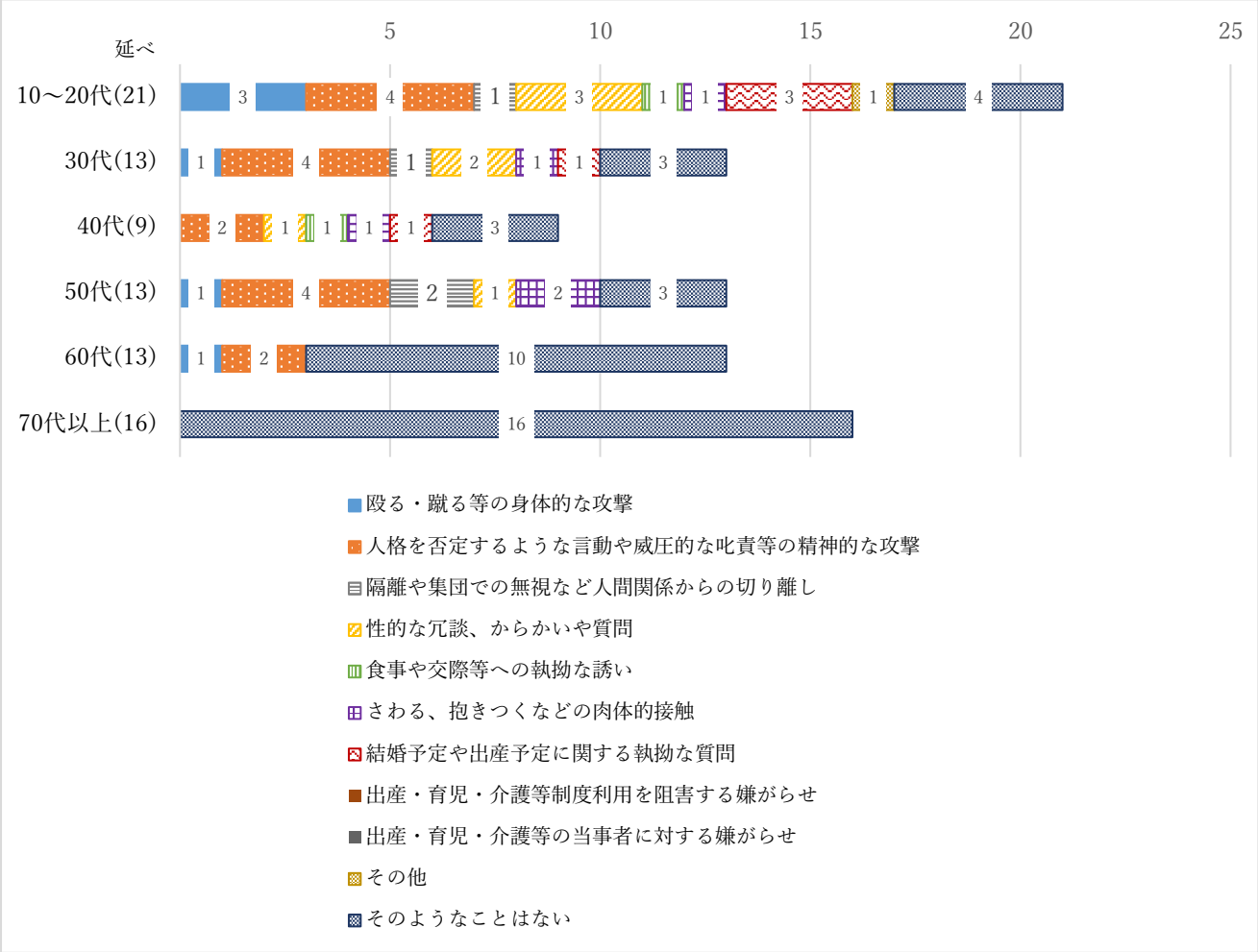
図表 22　ハラスメントの経験について

・男女ともに、何かしらのハラスメントを受けた経験がある人がいる。



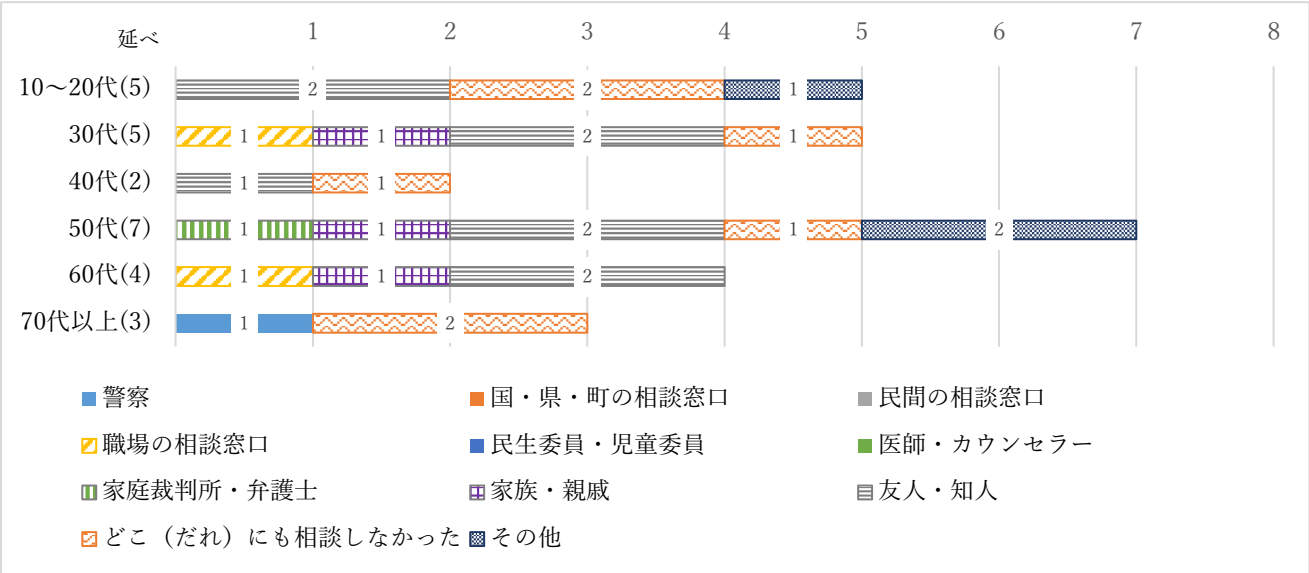
図表 23　ハラスメントの経験内容について

・70 代以上以外の年代において、何かしらのハラスメントを受けた経験がある人がいる。



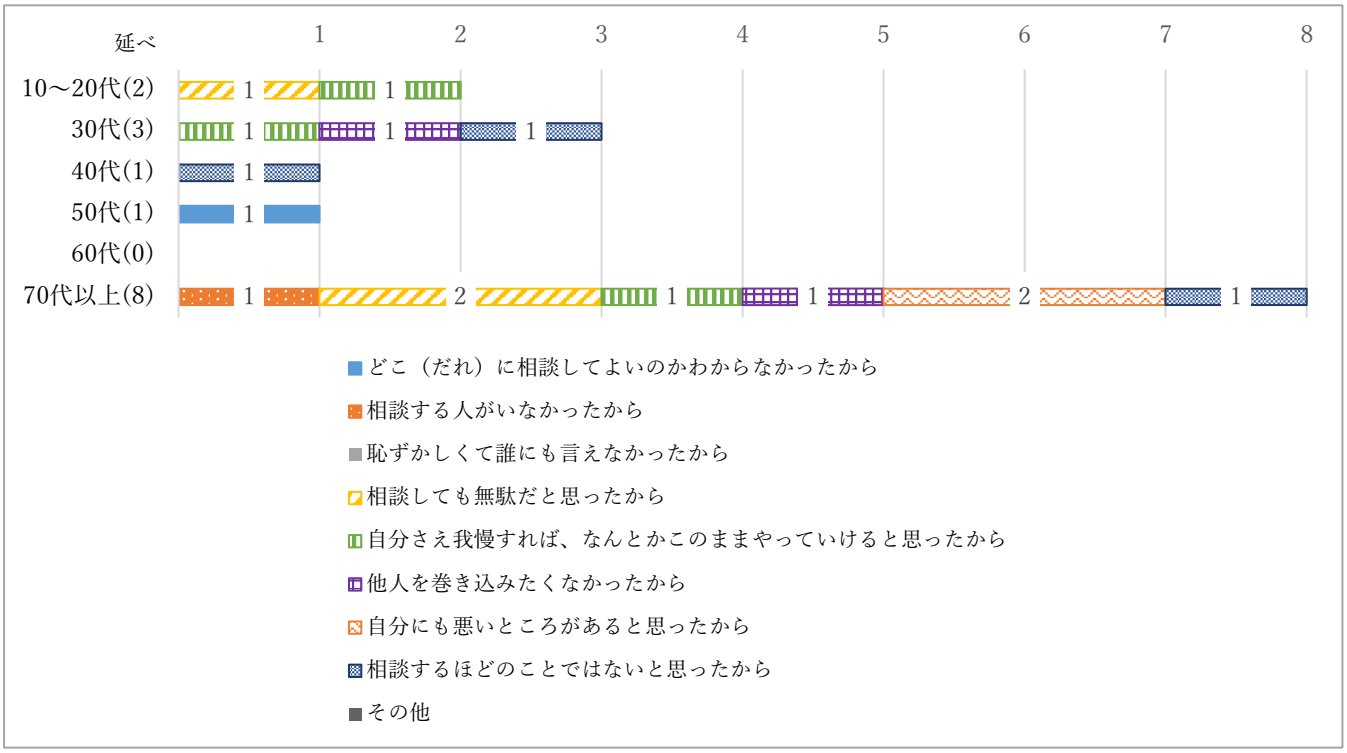
図表 24　DV やハラスメントの相談先について

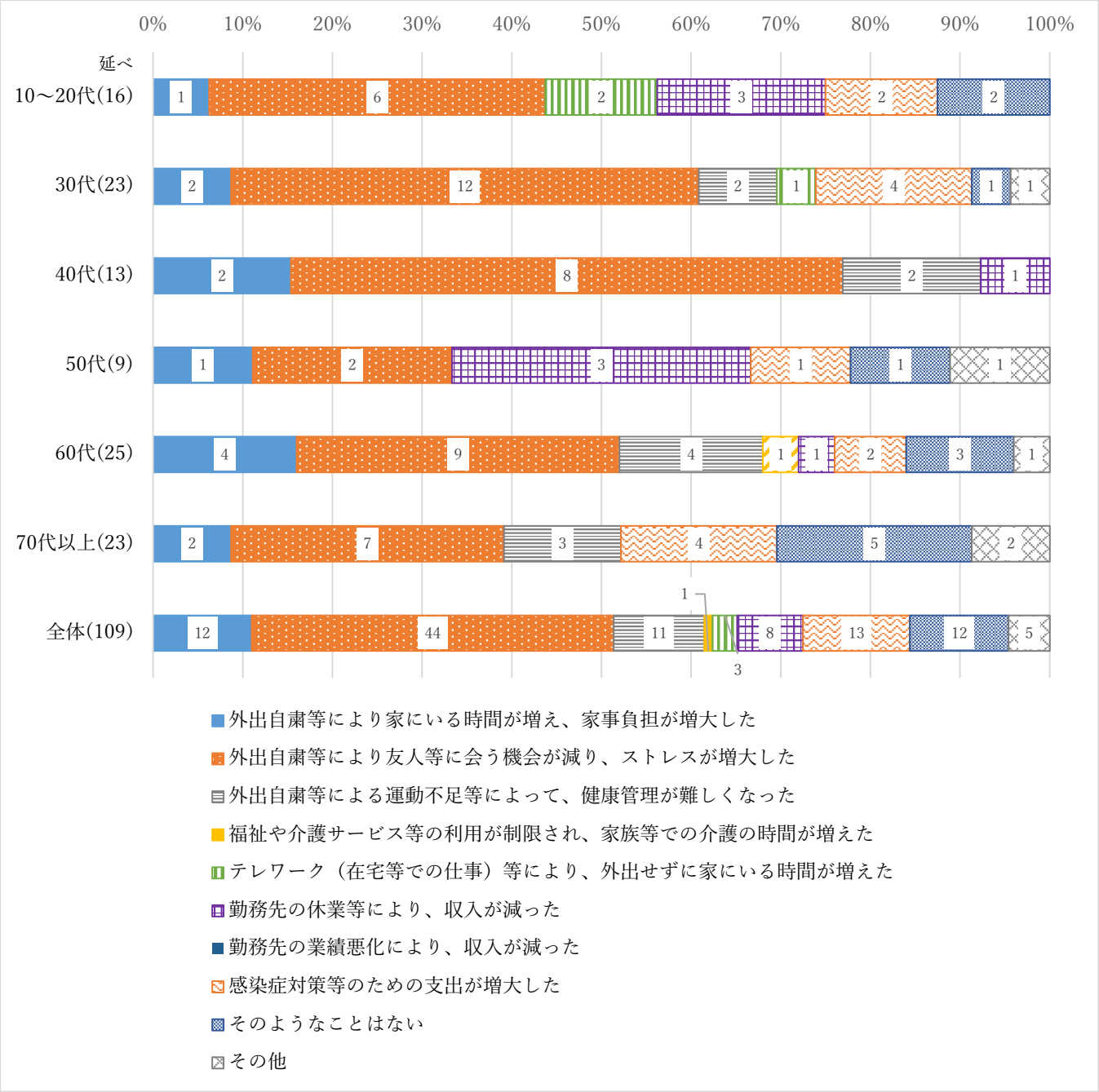
・相談先として、「友人、知人」がもっと多く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」の回答が多かった。



図表 25　どこ（だれ）にも相談しなかった理由について

・相談しなかった理由として、「相談しても無駄と思ったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」が最多であった。



図表 26　新型コロナウイルス感染症の影響について

・全体で見ると、「外出自粛等により友人等に会う機会が減り、ストレスが増大した」が最も多く、次いで「感染症対策等のための支出が増大した」が多かった。